

(様式第 6 号 別紙)

長崎県福祉サービス第三評価結果報告

① 第三者評価機関名

有限会社 医療福祉評価センター

② 事業者情報

名称：HOME ながさき	種別：共同生活援助
代表者氏名：甲斐 千尋	定員（利用人数）： 40 名
所在地：長崎市鳴見町 50-5	TEL 095-865-8975

*施設・事業所情報は、事業所プロフィール参照

② 施設・事業所の特徴的な取組

HOME ながさきは、利用者が共同生活し夜間は職員が常駐して支援する「宿直型ホーム」2 棟と、一般の賃貸物件に利用者が共同または単身で生活し職員が巡回支援する「夜支援型ホーム」5 か所を運営する共同生活援助事業所である。支援形態の異なる宿直型ホームと夜支援型ホームの両方を運営しているので利用者の自立度に応じて幅広く対応を行っている。

昨年（令和 3 年）12 月より、活動開始した拠点「LOCAL STATION STELLA（長崎地区）」に宿直型ホームのうちの一つ「あかりホーム」を新しく併設している。当初はあかりホームは定員 9 名の居室のうち 1 部屋のみを短期入所の居室にする予定だったが、利用者のニーズにより共同生活援助の居室 1 部屋を短期入所の居室へ変更して短期入所の居室を 2 部屋へ増床しており、利用者のニーズに合わせて運営体制を変化させる柔軟さを持つ事業所である。

HOME ながさきは宿直型ホームの利用者に対しては日中事業所やご家族との密な連携を行い、地域に点在する夜支援型ホームの利用者に対しては、より地域へ馴染んで生活できるように職場や地域の人々との繋がりを様々な形で支援しており、利用者の希望する暮らしへ近づくための支援を大事にしている事業所である。

④第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年7月6日（契約日） ～ 令和5年1月10日（評価結果確定日）
受審回数	初回

⑤総評

◇特に評価の高い点

【地域との交流】

法人として、また、拠点・事業所として利用者が安心して生活ができるように地域との関わりを大切にする姿勢が鮮明である。基本的なことかもしれないが、職員が挨拶を率先して行うことや、地域の掃除をする。また、地域の自治体に参加して共に地域の課題に向き合う等、日々地道に取り組んでいる。また、拠点の LOCAL STATION STELLA（ローカルステーションステラ）を地域住民等に知ってもらうため、拠点で人が集う「ステラマルシェ」を企画する等、地域との交流を活性化させることに尽力している。

【利用者を尊重した支援】

法人として利用者を尊重した支援を如何にして職員に周知徹底するかということで、わかりやすい動画を作成する等様々な手段を講じている。また、倫理綱領や愛隣訓（より良い支援のためのガイドライン）の作成だけではなく、より一層内容を充実させるために内容のアップデートを定期的に行っている。法人として利用者を尊重した支援を行うという共通認識を標準化している点と、常に内容をブラッシュアップしている点は、その本気度を如実に表している。

【利用者の自律・自立生活に向けた支援】

利用者がどのような暮らしを望んでいるのかを丁寧に聞き取り、利用者の希望する暮らしを利用者自身の力でできる範囲で達成するための積極的な支援を行っている。支援の具体的な事例の一つとして、利用者の「（現在交際中の）好きな人と一緒に暮らしたい」という希望のために、まずは料理を自分で作ることを目標にして利用者に対して月に一度職員が料理教室を実施するという支援を行っており、現在ではその利用者は自分で作った弁当を毎日職場へ持参するほど食事面で自立している。他にも利用者自身で金銭管理を行うための工夫として、1カ月の支出予算をポーチで分けるなど、それぞれの利用者の希望や特性等に合わせた自律・自立支援の取り組みの工夫が特徴的である。

【日中活動の利用支援】

共同生活援助のサービス提供の時間は基本的には主に朝と夜間が中心であり、利用者は日中それぞれの職場や日中事業所で活動しているが、利用者の生活の場であるホームとして、利用者の日中活動が充実したり円滑に行えるように個々のケースに合わせた外部との調整等の対応を幅広く行っている。具体的事例として、毎年春先に体調を崩し一週間ほど欠勤する利用者に対する支援として、利用者が欠勤した翌日に職員が利用者と一緒に挨拶に行き職場との橋渡し役となることで例年より早く職場復帰できたり、余暇の過ごし方が見つからない利用者に対して世話人の知り合いを通じて卓球の社会人サークルを紹介しており、利用者は現在も卓球を続けている。このように、ホームでは利用者の日中活動の充実のために様々なアプローチから支援を行っている。

◇改善を求められる点

【利用者やご家族へ向けたわかりやすい資料の作成】

今回の自己評価の中で理念や基本方針、毎年度の事業計画、プライバシー保護に関する取組み、サービス利用前の情報等についての資料は存在するが、利用者やご家族に向けたわかりやすい資料作りという点において改善の余地を認めた。イラストや写真、時に動画等で説明する等、今後の更なる工夫を期待したい。

【地域との交流】

ホームが属する LOCAL STATION STELLA（ローカルステーションステラ）は、拠点化されてまだ日が浅い。拠点周辺の福祉全般の施設等と顔の見える関係や、いざと言う時に連携や交流が図りやすい関係を構築することが望ましい。

【公益的な取組み】

ホームが属する拠点 LOCAL STATION STELLA（ローカルステーションステラ）の敷地内に多目的室があるとのことであった。新型コロナウイルス感染拡大で簡単ではないかもしれないが、利用者と地域住民が書道や絵画等文化的な活動で交流する等、多目的室の活用を通じたアクションを検討されたい。また、拠点の位置する地域は、住民の高齢化が1つの課題との話であった。火災や自然災害発生に備えて地域との共同防災訓練を行う等、更なる関係の構築を期待したい。

【権利擁護の取組みについて利用者やご家族への周知】

利用者の権利擁護に関しては法人独自の権利擁護マニュアル「愛隣訓」の整備と毎月の研修、倫理綱領の見直し、毎月の支援の振り返りなど、法人として特に力を入れて取り組んでいることが書類や訪問調査の中で伺えた。しかし、その取り組みを利用者やご家族に周知するという視点の取り組みは行われていないので、広報誌や意見交換会等の集会の時などに周知することを期待する。法人やホームの権利擁護への普段の取り組みに対して利用者やご家族の理解を得ることで、利用者やご家族がより安心感を持って利用することへ繋がると思われる。

【災害時の安全確保の取組み】

夜支援型ホームがある長崎地区の拠点「LOCAL STATION STLLA」は昨年12月に開設したばかりの拠点であるためか、法人の総合防災マニュアルには長崎地区のハザードマップのみ掲載されていなかった。拠点建設の検討時に立地条件等を確認されていると思うが、改めて法人や職員の災害対策への意識作りのため、ハザードマップの再確認と総合防災マニュアルへの掲載等の取り組みを期待する。

⑥第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

事業所の取り組みを振り返る機会となりました。改善が必要な所のご助言だけでなく今出来ている所も評価をいただき、毎日の業務はなかなか成果を肌で感じることは少ないですが、支援者みんな嬉しく思いました。ご助言をいただいた点については、迅速に改善を図っていきたいと思います。

⑦第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

⑧利用者調査及び書面調査の概要

(別紙)